

## 自己評価報告書

平成23年4月25 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20390550

研究課題名（和文）難治性の末梢神経障害をきたす大腸がん患者の評価指標に基づく包括的ケアモデルの開発

研究課題名（英文）Development of a comprehensive care model using assessment indices for colorectal cancer patients with intractable peripheral neuropathy

研究代表者

神田 清子（KANDA KIYOKO）

群馬大学・医学部・教授

研究者番号：40134291

研究分野：がん看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：がん化学療法、末梢神経障害、大腸がん、Oxaliplatin、評価指標、体験

## 1. 研究計画の概要

本研究の目的は、外来で化学療法を受ける大腸がん患者に出現する末梢神経障害症状を主観的、客観的に測定し、日常生活行動障害、心理・社会的な影響から明らかにする。そして身体・機能面、心理面、社会面（日常生活）からの確に捉えるためのアセスメント指標を作成し、包括的なケアが提供できるようなモデルを開発することである。

具体的目標は以下の通りである。

1) 神経障害が身体・心理・社会面に与える影響を自覚的、他覚的に明らかにする。

① 心理・社会面に与える影響をヒヤリングにより調査する

② 自己モニタリングにより症状の障害程度と日常生活行動調査をする

③ 身体症状への影響を神経学的・理学的に測定する

2) 暫定版アセスメント指標を作成し、身体・心理・社会面に与える影響を調査する

3) 確立したアセスメント指標を用い、チームで予防、緩和方法を検討し、患者の主体性を重視した包括的なケアモデルの開発

## 2. 研究の進捗状況

1) 目標を達成するために、末梢神経障害が日常生活に与える影響とその対処、およびしびれにより生じる感情へ与える影響に関する体験を調査した。

その結果、末梢神経障害を表現する言葉は、「びりびり、びりっ」など電気が走る感じの言葉や、感覚が鈍い感じ、力が入らないなど表現が多様である。暫定版アセスメント指標では「末梢神経障害」「しびれ」

に追加し症状の出現を把握する必要が示唆された。

2) 日常生活への支障は、家事の制限、細かい作業の制限、基本的ニーズの不満足、活動性や楽しみの縮小が多くなっていた。100mmのVASで評価した日常生活への支障の程度は0-89mmに分布し、平均32.8mm、特に細かい作業のボタンかけ、文字をかくことに支障を感じていた。心理・社会面に与える影響をアセスメント指標として網羅することが不可欠である。

3) セルフモニタリング記録から末梢神経障害を分析した結果、81%が症状に気づくことができセルフモニタリングはアセスメントに活用できることが示唆された。

また、がん患者は「繰り返すしびれに向き合う体験」「変化するしびれの対処を模索し生活の調和をとる体験」のプロセスを踏み、セルフマネジメントを行う自信を獲得しており、急性の末梢神経障害のマネジメントが難治性の末梢神経障害のマネジメントにも影響するため、急性の末梢神経障害への対処もアセスメント指標として有用である。

4) 末梢神経障害およびFOLFOX治療による末梢神経障害に関する国内外の文献からアセスメント指標を収集し、研究に用いる指標を明らかにした。

以上から暫定版アセスメント指標を作成し、身体（神経学的・理学的）測定と併せてデータを蓄積している。

### 3. 現在までの達成度

#### ③ やや遅れている

暫定版アセスメント指標をもとに、データを収集する予定であったが、治療レジメの変更により、対象者の選定に支障が生じ、開始時期が遅くなり、末梢神経障害に関する研究データの集積と解析が遅くなっている。

### 4. 今後の研究の推進方策

暫定版アセスメント指標を作成し、身体（神経学的・理学的）測定と併せてデータを蓄積している。データ蓄積が30例に達した時点で、日常の診療、生活障害や心理・社会的影響も把握できる簡便的で有用なアセスメント指標をさらに精選し、患者の主体性を重視した包括的なケアモデルの開発へと進めていきたいと考えている。

### 5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

- ① 武居明美, 瀬山留加, 石田順子, 神田清子: Oxaliplatin による末梢神経障害を体験したがん患者の生活における困難とその対処. THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL 2011: 61巻; 145-152 掲載決定 査読有
- ② 高橋裕美, 神田清子, 武居明美, 外丸富美子, 瀬山留加: 外来化学療法における末梢神経障害の特徴に基づく看護支援の検討 副作用症状の自己記録ノートからの分析から. THE KITAKANTO MEDICAL JOURNAL, 60巻, 143-150, 2010 査読有
- ③ 神田清子, 武居明美: 外来がん化学療法を受けるがん患者・家族の抱える不安と看護介入 外来看護最前線 14巻 87-98 2009 査読無
- ④ 武居明美, 福田佳美, 瀬山留加, 伊藤民代, 神田清子, 外来化学療法における副作用症状の特徴に基づく看護支援の検討 副作用症状の自己記録ノートの分析、保健学紀要 29巻 11-20, 2008 査読有

〔学会発表〕（計4件）

- ① 上野裕美, 瀬山留加, 神田清子: 化学療法に伴う末梢神経障害を体験した患者がセルフマネジメントの自信を獲得するプロセス、第24回 日本がん看護学会学術集会, 2011. 2. 12, : 神戸国際展示場（兵庫）
- ② 神田清子, 武居明美, 瀬山留加: 末梢神経障害を体験した大腸がん患者の情緒的反

応, 第24回 日本がん看護学会学術集会, 2010. 2. 14, 静岡グランシップ（静岡）

- ③ 武居明美, 瀬山留加, 外丸富美子, 神田清子: 末梢神経障害を体験した大腸がん患者の生活の困難と対処, 第24回 日本がん看護学会学術集会, 2010. 2. 14, 静岡グランシップ（静岡）
- ④ 高橋裕美, 武居明美, 外丸富美子, 瀬山留加, 神田清子: 外来化学療法における末梢神経障害の特徴に基づく看護支援の検討 副作用症状の自己記録ノートの分析から, 第24回 日本がん看護学会学術集会, 2010. 2. 14, 静岡グランシップ（静岡）,